



救済委員からのメッセージ

—— 新型コロナに負けないで ——

札幌市子どもの権利救済委員 原 敦 子

1 はじめに

「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例（子どもの権利条例）」の前文には「大人は、子ども自身の成長・発達する力を認めるとともに、言葉や表情、しぐさから、気持ちを十分に受け止め、子どもの最善の利益のために、子どもが直面することについて、ともに考え、支えていく責任があります。」と基本的理念が掲げられています。

札幌市子どもの権利救済機関 子どもアシストセンターは、子どもの権利条例に基づき、権利侵害に悩み苦しむ子どもを迅速、適切に救済することを目的として、子どもに関する相談・救済のための機関として平成21年4月に設置されました。

子どもアシストセンターでは、子どもから、そして子どもの周りの大人からの、子どもに関わる相談に対応しています。相談内容は、子どもに関わることであれば、日頃の悩みや困りごとから、いじめや虐待など子どもの権利侵害が疑われるようなことまで、どのようなことでも受け付けしています。

例えば、子どもからは「いじめられていて学校に行くのがつらい」、「友達から避けられている気がする」など、学校生活や友人関係の相談や、「自分は家族の誰からも必要とされていない」、「親の暴言や暴力が怖い」など家庭の悩み、「好きな人とどう接してよいかわからない」など恋愛や性の悩み、「自分は何者か」というアイデンティティの悩みなど、多種多様な悩みが寄せられます。

他方、保護者からも「子どもがいつも反抗的で困っている」、「子どもとどのように接したらよいのか分からない」、「子どもがいじめをうけているようで心配だ」、「自分のしつけが正しいかわからない」、「学校に相談したほうがいいのか判断がつかない」など、多岐にわたる相談が日々寄せられています。

2 新型コロナウイルスの子どもたちへの影響

令和2年は、新型コロナウイルスという未知の感染症により、社会全体が大きな影響を受けた年でした。子どもたちへの影響も非常に大きく、特に、2月末・3月初めから春休みまで学校が臨時休業となり、さらに、新学期が始まり学校が再開してからすぐの4月中旬から5月末まで、再度の臨時休業となってしまうしました。

その後も、クラスの臨時休業で自宅待機を余儀なくされたり、オンライン授業の導入で友人や先生と会えなかったりして、寂しい思いをした方も多かったのではないかと思います。

更には、運動会や修学旅行、部活の大会など楽しみにしていた行事の中止や、外出自粛等により大きなストレスを感じた方も多いのではないのでしょうか。

コロナ禍の影響は、子どもアシストセンターの相談状況にも反映されています。学校の臨時休業や外出自粛により在宅時間が長くなったこともあり、例年に比べると、家庭内の親子関係や兄弟関係をはじめとする家庭生活の悩みが多く寄せられました。

進学・進級やクラス替えの時期と臨時休業の時期が重なったこともあり、「離れてしまう友達と会えないままで寂しい」、「学校に行けず友だちができない」、「新しい環境になじめない」といった相談も目立ちました。

3 子どもの自死について

新型コロナウイルスが、世の中の雰囲気をも暗くする、さらには、経済活動にも悪影響を及ぼす中、令和2年度文部科学省「コロナ禍における児童生徒の自殺に関する現状」でも見られるように、令和2年は子どもの自死が全国的に大きく増えています。

子どもアシストセンターでも、自殺を考えるほど苦しんでいる子どもからの相談を受けることがあります。

そんなとき私たちは、まず相談者の話をよく聞きます。相談者のペースに合わせて、相談者の気持ちや、伝えたいこと、そしてその背景を聞いていきます。

辛いときは、誰かに話をするだけでも苦しさが和らぐ場合がありますし、もし相談だけでは解決ができない場合、調整活動で相手方との間に入り、悩みの解決を図ることもできます。

子どもアシストセンターは、どんな悩みでも子どもに寄り添って支えながら、子どもにとって何が一番良いことなのか一緒に考えます。秘密は守りますし、名前を名乗らなくてもいいので、一人で悩まず気軽に相談してほしいなと思います。

4 子どもの皆さんへのメッセージ

新型コロナで学校がお休みになったり、友だちと会えなくなったり、外出ができなかったりと、ストレスのたまる日々が続いているかもしれません。

悩んだとき、苦しいとき、寂しいとき、悲しいとき、その気持ちを一人で抱える必要はありません。あなたの周りには、あなたの助けになってくれる人がいます。

子どもアシストセンターもあなたの力になりたいと思っていますので、ぜひお話を聞かせてください。

また、皆さんのお友達や兄弟など、身近な人が辛い気持ちになっているときは、あなたも、ただそばにいて話を聞くだけで十分なので、自分のできる範囲で力を貸してくれるとうれしいです。

新型コロナは、人と人とのつながりを壊そうとしてくるウイルスです。今だけは、感染防止に努めて適切な距離をとりながらも、新型コロナに負けないで人との絆を大切に守っていきましょう。

5 保護者の皆さんへのメッセージ

子どもを支える大人の皆さんにお願いです。子どもから寄せられる相談の中には、保護者に相談することができず、子どもアシストセンターに相談するといったものもあり、そういった場合、私たちは、保護者に相談できるよう子どもの背中を押すようなアドバイスを行うことも多くあります。

子どもが親に相談できないのは、心配をかけたくなかったり、相談しにくい内容だったりといろいろな事情があるようです。お子さんが勇気を出してご両親に相談したときには、仮にちょっと違和感があっても、頭ごなしに否定したり、大人の考えを押し付けたりするのではなく、まずは子どもの話をよく聞いてあげてください。

そのうえでお互いが納得できるまで話し合うことで、子どもにとって一番身近なご家族に、いつでも相談できる信頼関係を育てていただけないか

と思います。

大人が新型コロナウイルスで様々な不安や不満を感じているのと同様に、子どもも生活の変化や感染への恐れで大きなストレスを抱えている場合があります。皆様には是非、コロナ禍の中、もしも自分が子どもだったらどう感じるか、という視点を忘れずお子さんに寄り添っていただければ幸いです。

6 最後に

新型コロナウイルスとの戦いが始まってもう一年以上がたちました。最前線に立って新型コロナと戦っていただいている医療機関従事者の方々、我々の日々の生活を支えてくれているエッセンシャルワーカーの方々、そして、新型コロナの予防やまん延防止のために自粛や「新しい生活様式」の実施にご協力をいただいている皆様に、心から感謝を申し上げます。

新型コロナはまだまだ全世界で猛威を振るっていますが、人類はこれまで、天然痘、コレラ、ペスト、結核、スペイン風邪（インフルエンザ）など多くの伝染病を抑え込んできました。

新型コロナも近い将来、必ず収まりますので、今はみんなで頑張りましょう。頑張ったことはきっと思い出話になります。それまでの辛抱ですね。



子どもアシストセンター
マスコットキャラクター
「ハッピー」